

南西から北東方面（周防灘）を望む



～城下町長府の象徴～

【城郭データ】

城郭名：串崎城（くしざきじょう）

別称：櫛崎城、雄山城、長府城

時代：室町時代～江戸時代

城主：内藤隆春、毛利秀元ほか

主な遺構：天守、石垣、薬研堀ほか

登山条件：関見台公園内（駐車場有）

所在地：長府宮崎町

串崎城の城主毛利秀元。十代で朝鮮半島進攻に加わり伊達政宗等と共に活躍。一躍名を馳せた。

【串崎城の概要と特徴】

串崎城の草創については不明な点も多いが、室町時代から大内氏の配下であった内藤氏により基礎が築かれたとされる。その後、関ヶ原の戦いを経て毛利氏が防長2か国を治めるに至り、長府藩初代藩主毛利秀元により整備され現在の姿となった。

毛利秀元は朝鮮半島出兵で名を馳せたが、串崎城は朝鮮半島南海岸に築かれた「倭城」と同じく、港湾施設を持ち海が迫る丘陵部に本丸と天守を置く特徴を持つ。



【串崎城復原図（関見台公園説明版より）】

藤井尚夫氏による復元図。毛利秀元により整備された串崎城の当時の姿で、3層の天守閣も描かれる。城郭が立地する丘陵の三方裾が海岸であったことがわかる。



串崎城のあるところ～城跡の今と昔

串崎城は1615年の元和の一国一城令により廃城となる。城内には宮崎八幡宮（現豊功神社）や屋敷も築かれた。現在、天守台付近は公園整備されており、クジラのモニュメントも残されている。



A. 豊浦高等学校の通用門「櫛崎門」。隣道は串崎城の大手口に至る通りであった。白壁が当時の様子を想像させる。



B. 毛利秀元も祀られる豊功神社。築城に合わせ毛利氏軍神宮崎八幡宮を勧請して以来、長府毛利家の崇敬を受けた。



C. 現在は細い路地に接して住宅が建つが、元々は御殿があった二の丸。集落内の段差は、曲輪の境を残すもの。



D. 本丸付近は公園整備されている。天守台は廃城の際、石垣ごと崩されたが、現代の工法でよみがえった。

【アクセス】

国道9号線沿い、関門医療センターの北側に接する。病院北側の歩道橋がある交差点より海側に入り駐車場にいたる。駐車場から園路を通れば公園整備された本丸にいたる。

